

はじめに

本冊子は、「見せどころ設計マニュアル」の通算4冊目となるものです。一人1台端末導入の先行実践校としての取組がスタートした令和3年2月に始まる実践の始まりを掲載に入れるため、令和2年度の実践にプラスして、令和3年度1学期までの実践を掲載することにしました。

そこで本誌の肩書を、「**令和2年度+（プラス）**」と称することにしました。

本校の多様な取組は、教師の授業改善探究活動です。この「見せどころ設計マニュアル」は、「ID/ICE」を用いて職員の探究活動を俯瞰し、授業改善を可視化したものだといえます。加えて、GIGAスクール構想の環境下では、紙ベースの冊子だけでなく、ホームページを活用することも容易くなってきました。そこで、この冊子の内容を「いつでも・どこでも・気軽に」見るできるように職員向けにホームページ形式で作成し、職員で共有することに挑戦しました。このことで、スライドを掲載したり、アンケートを一体化したりすることができるようになるなど、可能性が広がってきました。

また、実践が積み重なってくると、それぞれの実践同士のつながりもはっきりと見えてきました。そのように変化してきたのも、研究が進んだ証拠であろうと思います。その研究の成果をタイムリーに反映させ、共有することができるというのもホームページの利点といえます。

冊子「見せどころ設計マニュアル」と、職員向けに編集共有する「第二高校職員研修サイト」を活用しながら、「主体的で対話的で深い学び」を意識した授業改善、研究開発の歩みを継続してまいります。



「二高ICEモデル」

カナダで実践される Ideas（知識）、Connections（つながり）、Extensions（応用）を軸とした評価法をもとに、主体的な学びを評価するフレーム。「二高ICEモデル」では、Idesa（習得）、Connections（活用）、Extensions（探究）と定義する。より探究型授業の評価を意識したモデルとなっている。

「ID（インストラクショナルデザイン）」

教育活動の効果・効率・魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またはそれらを応用して学習支援環境を表現するプロセス。